

ユリノキの町から 風の便り 59

2023 (令和5) /9/1.
八千代市ユリノキ台 辻 秀幸

ハチのムサシはここにいる (昆虫綱・ハチ目)

黄色と黒のしま模様は警戒色。ハチがそれだ。自然観察の授業に付き添ったクラス担任がハチに刺されて顔が膨らんでしまった。生徒が木の枝を揺すったらすぐ近くにスズメバチの巣があって、少しあとについていた担任が攻撃された、らしい。すぐ医者に運ばれて大ごとにならずに済んだが、そういう話を聞いていたので、黒黄のはっきりしたハチには近づかないことにしている。君子ではないが、危うきに近寄らない主義だ。それなのに、危なそうなハチを幾つか記録していた。



上写真 スズメバチ科 ㊦コガタスズメバチ 2022/9/30. 船橋・浜町1.「浜町公園」
㊧セグロアシナガバチ 2021/5/3. 船橋・浜町1.「浜町公園」
㊨コアシナガバチ 2018/3/29. 船橋・浜町1.「京葉道路」南法面



面構えを見るとおやしギャグが通じそうもないことがわかる。噛みつかれるのは怖い、もっと怖いのが毒を注射するお尻の針。産卵管の変化したものだそうで、ということ針を持つのはメス。メスに近づかなければ大丈夫、ということだが、私が目にするのは働きバチ、つまりメスだけと考えてよい。性別を気にする前にちょっかいを出さないことだ。針はエサを集めるのには使わない。巣や自分を攻撃する相手を下すために使う。

左写真 コアシナガバチ 2018/3/29. 船橋・浜町1.「京葉道路」南法面



刺した針は抜けないので、取り除こうとするとハチは体がちぎれて死ぬ、と聞いたことがある。そうなるのはミツバチだけで、それも人間を刺した時だけだそう。人間以外の敵には何度でも使える。

刺されるのは病院の針だけにしたい。それでも採血で血管を針先で探られて痛い目にあうことがある。

左写真 コガタスズメバチ 2022/9/30. 船橋・浜町1.「浜町公園」

名前だけはよく知られていて親しげなのがミツバチ(セイヨウミツバチ)とクマバチ(クマンバチ。キムネクマバチ。ミツバチと同じ科ですって)だろう。

ミツバチは近くの学校で飼うことがあるかもしれないので、飛んで来るかもしれない。養蜂家の指示に従えば巣を見たり蜜をなめたりできるけれど、群れ全体が協力態勢にあり、攻撃性も強いので、うかつに手を出すと集団で反撃してくる。あの最恐オオスズメバチも追い返し、殺すこともある。ミツバチマーヤもスズメバチと戦った。

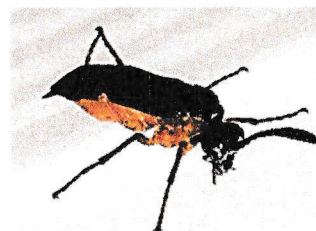
クマバチは浜町公園で、ドローンがやって見せるように空中停止する姿を見せる。空中停止(ホバリング)は、メスを探すオスの行動。顔は怖そうだがオスは針を持たないし、オスもメスも私のように温厚控えめな性格なので、握りつぶそうとでもしない限り攻撃されない、ということになっている。が、実験は自己責任でどうぞ。空中停止しているところを捕獲するのは簡単そうだが、テキもさるもの飛び技のスペシャリスト。補虫網を持たない私には無理難題。

アブかハエだろうと思って捕まえて調べたらハチ(の仲間)だったというのも記録している。見た目で仲間分けされているのではなくて、体の仕組みが同じということだ。下写真がその例。

逆に、ハチとは違う仲間のハナアブやカミキリムシの中には、ハチに似せた警戒色で身を守るものがある。針をもたないのに刺す草やさらに羽音まで似せたのまできているという。ムシの世界はだまされたりだまされたり複雑だ。私のように単純飛行灯ではムシ世界ではとても生きていけない。輪廻転生、次の世にもヒトに生まれ変わったほうが無難のようだ。逆にムシからすると、ヒトの世界の方がカオイロを窺ったり、見えない粹やしづりがあったりして、複雑奇怪な世界に見えるのだろうか。



クマバチ (ミツバチ科・コシブトハナバチ科) 上下共 2019/5/30. 船橋・浜町1.「浜町公園」



㊩セグロカブラハバチ (V子科) 2021/4/7. 船橋・浜町1.「浜町公園」
㊪ヒメハラナカツバチ (ツチバチ科) 2019/8/24. 船橋・浜町1.「浜町公園」

